

防災情報システム運用訓練

特色のある内容

元町学区自主防災会では、学区総合防災訓練において、災害対策本部訓練の一環として避難所である、元町小学校に設置されている防災情報システムを使用し、災害対策本部で収集した避難状況及び被害状況を北区役所への伝達報告訓練を実施しています。

訓練には、北区役所職員が防災無線で、北区役所へ避難状況等の送受信を行い、大規模災害発生時に、的確に使用できるように、毎年実施し、元町学区自主防災会と北区役所の絆を深めています。



特記事項

- 防災情報システムの必要性及び取り扱い方法について訓練することで、元町学区自主防災会に対し意識の向上を図ります。
- 北区役所職員が訓練に参加することにより、地域が一体となった訓練が実施できます。

情報収集活動の向上を目指す

特色のある内容

各自主防災部が市民防災行動計画に定められた一時避難場所に集合し、訓練場所である朱雀第一小学校に向け避難行動訓練を実施しました。その際、避難途上に発見した以下の災害情報を自主防災会本部に伝達し、自主防災会長の指揮により、消火、救出・救護訓練を実施しました。

災害情報1「中京区西ノ京職司町1000番地 防火太郎方から出火し、木造家屋の内部が燃焼中で火災は拡大中である。」との状況報告を受けた自主防災会会長は、消火班を召集し、訓練用消火器20本を使用し、1組5名編成にて4組が消火活動を実施しました。災害情報2「中京区壬生御所ノ内町1001番地 防災次郎方の木造家屋が倒壊し、男性1名が下敷きになり救助を求めている。」との報告を受けた自主防災会会長は、救出・救護班10名を召集し、自主防災会用救助器材を使用して、倒壊家屋から男性1名を救出しました。その後、応急担架を作成し、応急救護所へ搬送する訓練を実施しました。



特記事項

- 本訓練は、自主防災会と消防分団の自立を目指し、住民による住民のための防災訓練の運営を目指していたが、自主防災会会長及び本部役員の高齢化と訓練不足により、訓練進行が円滑に進みませんでした。
- 今後、自主防災会及び消防分団にて円滑に防災訓練が実施されるよう、更なる事前の役割分担の調整を含めた訓練指導が必要です。

独自の様式を使用した情報収集方法

特色のある内容

朱雀第七自主防災会では、自主防災会が独自で、避難人数、倒壊家屋及び負傷者等の状況をわかりやすく記入できる情報収集様式を作成しています。毎年の総合防災訓練では、自主防災部長にこの様式を使用してもらい、使い方を覚えてもらうことを訓練の主眼として位置付けています。また、この様式を繰返し使用しているため、総合防災訓練時に本部役員が各自主防災部からの情報を非常に短時間でまとめることが出来ます。全自主防災部長に配付し、大規模な災害が起こったときは、この情報収集様式を使用できるように準備しています。



特記事項

- 毎年、総合防災訓練で使用していますが、実際に使用していると改善点が見えてくるので、各自主防災部長からこの様式を使用した際に何か変更する点がないかなどを聞き、翌年その点を変更して出来るだけ使いやすいものに改善しています。

アマチュア無線で正確な情報発信

特色のある内容

初音学区では毎年秋に開催される「初音学区ふれあい広場」に防災コーナーを開設し、学区民の防災意識の高揚を図っています。今年度は大地震発生時の情報錯そうによるパニックを防ぐため、アマチュア無線を使った「初音学区自主防災会震災対策本部運用訓練」を行いました。訓練想定は、地震で電話が不通になり情報通信網が遮断されたとの想定で、無線免許を持った者が携帯無線を携え、学区内を回り被害状況、救助の有無及び火災の状況について情報を収集し、本部に無線で連絡を行いました。また、本部では受信した被害の情報を集約し、情報収集中の携帯無線局に初音学区全体の被害情報などを発信し、地域住民に伝達するまでの訓練を行いました。



特記事項

- 地域住民に火災発生状況、避難誘導情報及び被害情報など正確な情報を伝達する体制を整えるため、初音学区自主防災会にはアマチュア無線の免許を持っている方を5名まで拡大しました。
- 初音学区及び周辺学区の情報収集を円滑に行い、無線電波の最大の武器である情報の同時受信及び共有化を図るためにも、将来に向け周辺学区や中京区内にアマチュア無線局が広がることを期待しています。

65歳以上の高齢者すべての安否を確認

特色のある内容

音羽川学区自主防災会では、毎年度開催する学区総合防災訓練で、情報伝達訓練、消火訓練、救護訓練、避難誘導訓練、給食給水訓練に先立って、学区内の高齢者の安否確認訓練を実施しています。

事前に作成した65歳以上の高齢者リストを手に、各自主防災部（各町内）の役員と隣組の組長が手分けして高齢者の安否を確認します。そして安否確認の結果を自主防災部ごとにとりまとめて自主防災会本部に報告します。

地道な内容ではありますが、この訓練も今年度で5回目となり、大災害発生時にすぐに役立つ、地域に根ざしたより実践的なものとなっています。今後は、高齢者のいる世帯だけでなく、学区内のすべての世帯について安否確認ができるようにしていきたいと考えています。



安否確認訓練、豚汁と a 米の給食給水訓練と並んで、音羽川学区総合防災訓練の名物となりつつある500名による大バケツリレー。最後には防火たすきもリレーします。

特記事項

- 自主防災部の役員の皆様は、毎年度変化する高齢者リストの修正作業を通じて、地域の高齢者の顔と名前を再確認していただきます。そしてフェイス・トゥ・フェイスでの確認作業を通じて、防火・防災のみならず、地域の要配慮者対策の重要性について改めて認識していただきます。
- とかく高齢者が地域で孤立しがちであるといわれる昨今ではありますが、音羽川学区の高齢者の皆様は、総合防災訓練に参加する方も参加できない方も、自主防災部の役員や隣組長の訪問により、どんなに心強く思っているかしれません。

時間フェーズ毎の地震災害対応訓練

特色のある内容

本年は、時間フェーズ毎の地震災害対応能力向上をテーマに、グループ分けした訓練参加者が119番通報訓練、倒壊家屋からの救出訓練、情報収集伝達訓練及び避難所運営訓練をローテーションする形式で実施しました。

119番通報訓練及び倒壊家屋からの救出訓練は、地震発生直後を想定した訓練です。

情報収集伝達訓練は、地震発生から12時間までを想定した訓練です。学区内で発生した災害をイメージするパネルを掲出し、訓練参加者がパネルを見て災害状況を把握、災害対策本部に状況報告及び必要な人員や資器材を要請する訓練で、災害に備え学区や町内で必要な資器材を再確認しました。

避難所運営訓練は、地震発生から24時間経過後以降を想定した訓練です。阪神・淡路大震災などの避難所で実際に発生した6つの問題をそれぞれカードに記載し、訓練参加者が避難所運営委員という立場で検討、ルール作りを実施し、避難所生活がどのようなものかを模擬体験しました。



特記事項

- 119番通報訓練は、消防指令センター経験者による緊迫感ある通報訓練を実施するために職員による指導となったが、その他の訓練は、2箇月前から反復訓練を実施するとともに、自主防災会の定例会で会長・部長に訓練の趣旨説明を丁寧に行いました。
- その結果、個々の防災知識が向上し、救出訓練、情報収集伝達訓練及び避難所運営訓練を通じて、自主防災組織が「自分たちの町は自分たちで守らなければならない」と認識し、地域の連帯感の構築と防災意識の向上に効果的な訓練となりました。

高層住宅における震災対応訓練

特色のある内容

平成19年12月9日（日）に向島NT5街区7棟及び8棟をモデル地域とし、震災対応訓練を実施した。訓練内容は、安否確認訓練、情報伝達訓練及び消火訓練とした。

安否確認訓練

組長は担当する各世帯の扉を叩くか、チャイムを鳴らしながら「安否確認です」と呼び掛ける。1世帯の確認所要時間は約30秒とする。呼び掛けられた各世帯は、付与された想定を組長に伝える。組長は安否確認結果をまとめ、次の情報伝達訓練に移る。

情報伝達訓練

組長は1階エレベーターホール前で待機する棟長に、安否確認結果を報告する。棟長は報告内容から救護班及び消火班を編成し、計画で定められた各活動を実施する。



特記事項

- 発災初期における住民の対応能力を向上させ、併せて防災意識及び住民間の協力意識の向上を目指すことをポイントとした。組長不在の階は、自主防災会役員及び5街区自主防災部長が積極的に代役を務めたため、安否確認訓練は全ての階で実施できた。
- 今後は二ノ丸学区自主防災会として震災対応訓練を実施していきたい。